





発 行

ムーディー・インターナショナル・ サーティフィケーション株式会社 大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13 F Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ (http://www.moodygroup.co.jp)でご覧頂けます。

CONTENTS

- 新年ご挨拶
- 2 特集
- 経営者のためのISO再入門(2) 「内部監査とマネジメントレビュー」
- **4** MICニュース
 - ●養殖水産業の認証 -ASC-
 - ●インターテック 全英ビジネス賞 受賞
 - ●審査向上のための取り組み
 - ●Information: ISOマネジメントシステム規格 の共通化と改訂情報説明会
- 審査の現場から
 - ●お客様紹介 (矢崎総業株式会社 Y-CITY)
- 連載よみもの
 - ●MICリレーエッセイ 「負うた子に教えられる」 (審査員 則直 彰)
 - ■環境よみもの「環境とISO14001」
- 7 お客様からのお便り
 - ●「隠岐の島」 (株式会社竹田組)
 - 「人生リサイクル」(三洋金属株式会社)
- 3 研修コースのご案内
 - ●ちょっといっぷく
 - ●コースのご紹介/受講生からのお便り

新年のご挨拶

オペレーションマネージャー 古沢 幹子

皆様、 新年明けましておめでとうございます

日本の景気がなかなか上向かないまま 2012年も終わりまた新しい年のスタートです。 私は3年前にもこの情報通信の巻頭ページを書かせていただきましたが、その前年末にオバマ政権が誕生したことを書いています。 今年もこうして書かせて頂いておりますが、昨年末オバマ大統領が再選しました。オバマ大統領の再選は今後世界経済にどのような影響を与えるのでしょうか。



アメリカの動きが世界に影響を与えるように私たち外資系企業も海外本社の影響を多大に受けます。一昨年Intertekと統合してから、色々な変化がでてきています。特に昨年以降は海外事務所からのグローバル契約に関する問い合わせが増えたり、海外事務所からの来訪者が増えたりしています。今までMoodyではできなかった航空宇宙産業の規格(AS9100)や医療機器の規格(ISO13485)などの審査に外国から審査員を呼ぶことも増えました。また、お客様の中でも海外へ進出を始められている企業様が少しずつ増えてきています。

最近は日本企業でも社内の公用語を英語にするなど、グローバルを意識しているところもあります。言葉だけでグローバルとは言えないと思いますが、我々も海外とのやり取りの中でお互い違う認識を持っていることに気付かされることがあります。認識が違うということは我々がより良い方法があるにも関わらずそれに気付かなかったということもあります。そういう時は自分達が変われる機会だと考えます。弊社は海外といつもコミュニケーションを取れる環境にあるので変われるチャンスがいつもあるということです。私たちが変わることで、今までできないと思っていたことや目新しいことでお客様にとっていい刺激となるようなサービスが提供でき、少しでも日本社会の活性化につながればと思っております。

新年を迎え、皆々様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますと共に本年も 何卒よろしくご指導並びにご鞭撻の程お願い申し上げます。

MOODY INTERINGUAL CONTROL OF THE CATION



経営者のための150再入門(2)

「内部監査とマネジメントレビュー」

ISO再入門の2回目です。前号では、システム全体について、改善を進めるための問題点、課題等について見ていきました。今号では、普段着姿のシステムを進めるためにはどうしたらいいのか、具体的なポイントについてご紹介していきます。システム活性化に繋げて頂ければ幸いです。 (編集部)

「内部監査とマネジメントレビュー」

MIC主任審查員 松田 浩男

トップの意思をはっきりと打ち出し、その実現にISOを 役立てる

かみし

「裃姿のISO」は言い換えれば、「よく分からない規格の文言に縛られたISO」です。レベルA)[認証取得直後]はいざ知らず、B)[顧客満足]、C)[組織の存続・発展]を達成しようと思ったら「トップの意思」を明確にしてそれに沿ったISOにしなければなりません。使命(Mission)とビジョン(Vision)、そしてそれを実現するための戦略と目標(「中長期計画」、「年度計画」)が必要です。

ISOマネジメントシステムの主軸である「内部監査」と「マネジメントレビュー」を、規格の文言通り、最初に認証を取得したときと同じやり方で形式的に実行するのではなく、トップの意思の達成に役立つように、自主性をもって行う、それが「普段着のISO」です。

裃姿の内部監査

規格の内部監査の意図は、システム全体を定期的に チェックして問題点を摘出し、経営者に上げる(マネジメント レビューのインプットする)ことです。

「裃型」は、「システム全体」と「規格の要求事項の文言」にこだわり過ぎます。ISO9001であれば、4.1から8.5.3までに書いてある通りの文書や記録書式があるかどうか(記録の中身ではなく、書式のチェックで済ますことが多い)を、チェックリストを使って順番に確認していき、「適合」、「不適合」の印を付けていくスタイルが多いですね。チェックリストは認証取得時に使っていたものをずっと使っている... 訊かれる方も毎回同じ質問だから同じ答えで済んでしまい、何も指摘は出ないわけです。

内部監査の普段着化

「普段着型」で、B)を意識するにはどうしたらいいでしょうか?

まず、内部監査の度ごとに「重点監査項目」を管理責任 者がトップの意思を踏まえて決めます。「問題点」、「改善 したい点」、「気になる点」が重点監査項目です。「なぜ品 質目標の方向にパフォーマンスが改善されないの か?」、「なぜ顧客苦情(工程内不良、購買・外注不良の 場合もあるでしょう)が減らないのか?」、「納期遅れが目 立ってきたが、どこに問題があるのか?」、「設備故障が 増えてきたがどうしてか?」、「従業員の力量は十分か、 教育訓練の成果はどうなっているか?」などなど、いくら でもあるでしょう。毎月の定例会議などで一応の答えはつ かんでいることが多いでしょうが、せっかくの内部監査を 有効に活かして、もっと真実に迫り、根本的解決策を探る のです。この方式にすると、「年1回」では足りない場合が 当然出ます。「定期」の他に「臨時」があっていいわけで す。「ISOの認証を維持するためにやる内部監査」ではな く、「トップの意思の実現のための内部監査」であるなら ば、「無駄な仕事が増える」という「やらされ感」は出てこな いはずです。

「普段着型」の場合も、問題探索の糸口をつかむために「チェックリスト」は用意すべきです。その場合、「何々はありますか? はい、あります」で終わってしまう「はい/いいえ」で答えられる質問ではダメです。「.....についてどうやっていますか?」というように、相手に語らせ、その中からきっかけをつかんで芋づる式に質問をつなげ、真実に迫るのです。次々に質問を展開する必要があるので、チェックリストには、アドリブの質問とその答えを記入する十分な「すき間」がなければなりません。内部監査員がそのようなやり方に慣れていない場合には、管理責任者が主催して事前に「模擬内部監査」を行い内部監査員を訓練しましょう。内部監査員は、「社長の意思が業務の現場で活かされ、必要なパフォーマンスが得られるようになっているか」を見て回る役割ですから、社内で任務の重要さに応

じた扱いと育成をすべきです。監査の結果は、「適合」、「不 適合」だけではなくて、中間の「観察事項」とか、相手の立 場に立ち解決策を提案する「改善の機会(参考意見)」など を取り入れて、監査がより改善に役立つようにしましょう。

裃姿のマネジメントレビュー

次は内部監査のアウトプットの受け手であるマネジメントレビューです。マネジメントレビューもISO認証取得活動の一部として始める活動であり、しかも規格に内容が細かく規定されているので、「裃化」しやすい条件が揃っています。

マネジメントレビューの頻度は、1年ごとが一番多く、次いで半年ごとですね。トップマネジメント(経営者)がシステムの見直しを行う活動ーシステム全体についてのPDCAのCとAを行う活動ーが1年ごとで十分なのか?という疑問が出て来ませんか? たとえば、「品質目標」(年度目標であることが多い)の達成はシステムにとって大変重要なことですが、年度末にマネジメントレビューが実施されるケースでは、せっかくのレビューの結果を品質目標の達成に活かすチャンスがないことになります。

「マネジメントレビューの記録」でよく見られる欠点は、

- 1) インプット、アウトプットとも抽象的、総論的で、具体的アクションに結びついておらず、CAの役割を果たしていない。
- 2) インプットで問題が指摘されているのに、トップがそれをどう判断したのかの記録がなく、アウトプットにも何ら記述がない。
- 3) アウトプットがインプットと何ら関係なく出されている。 (インプットとアウトプットのつながりがない)
- 4) アウトプットでアクションが指示されているにも関わらず、受け手、時期が特定されていないため、指示が実行されない。
- 5) 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ」が抽象的、お座なりでフォローアップになっていない。
- 6) アウトプットに「なし」が多い。

マネジメントレビューの普段着化

まず、上に挙げた欠点をなくすようにしましょう。 さらに、ほとんどの企業で、裃を着た「1年ごとのマネジメントレビュー」の他に、「経営会議」、「生産会議」、「営業会議」、「品質会議」、あるいは「社長診断」、「社長パトロール」といった名称の普段着の活動をやっているはずです。 議事録を作成していることも多いですね。 多くの場合、それらの活動の中でマネジメントレビューの 要求事項の一部がタイミング良く生き生きと実行されている ことに気づくでしょう。それが分かったら、それらの活動もマ ネジメントレビューの一部と考えられるので、マネジメントレ ビューのやり方を規定した文書があれば(品質マニュアル に書いてあることが多いですね)、そこに追加し、位置づけ を明確にして体系化するのです。月次会議だけでは、マネ ジメントレビューの要求事項のすべてを洩れなく満足はし ないでしょうから、うまく組み合わせることが大切です。

部門品質目標の達成状況を、四半期/4ヶ月/半期ごとなどにトップがレビューしているケースもよく見られます。この活動も体系化すればマネジメントレビューの一部になります。

少し余裕が出てきたら、「月次会議」と「マネジメントレビュー」には微妙な活動内容の違いがあり得ることも理解しましょう。ISO9001の5.6では、「あらかじめ定められた間隔で」としか書いてありませんが、ISO9004の8.5では、「動向(trend)が明確に把握できるように、また、目標の達成への進捗が評価できるように、あらかじめ定められた定期的な間隔で」とより明確に書いてあります。"trend"を把握(check)して、必要ならばactionの指示を出すのに必要十分な間隔をあらかじめ考慮し設定しておくことが求められています。

適正な「間隔」は、市場・顧客の変化の速度、自組織の置かれた状況で当然異なりますが、ポイントは、「動向を把握してアクションがとれるようなタイミングで」ということです。月次会議が常にマネジメントレビューの一部であるとは限らないという意識が必要です。

最後に

勇気をもってISOを普段着として使いこなしましょう! 万一、普段着化が行きすぎてA)が怪しくなった場合には 審査員がコメントします。維持審査、更新審査は組織と審 査機関のコラボレーション(協働)の機会です!

松田浩男(まつだひろお)

MIC品質主任審査員。 東京大学理学部卒業。 新日本製鐵及び関連会社に て、製品企画・開発、現場で の実用化開発、品質管理、 品質保証に従事。 東京都西東京市在住。





養殖水産業の認証 ~ASO~

昨年11月にWWFジャパンの主催にて「責任ある養殖業と養殖水産物調達の今後~養殖業の課題と認証制度 ASC~」と題されたセミナーが開催されました。ASCとはAquaculture Stewardship Council: 水産養殖管理協議会と訳されます。以前よりMoodyが世界中で認証審査を実施しているMSC認証(海のエコラベル)は、天然水産物を認証する制度ですが、ASC認証は養殖による水産物を認証する制度です。

水産物全体に占める養殖の割合は、2003年の34%から2010年

の47%に急激な増加を示しています。また、世界人口の増加に伴い2050年には現在の2倍の養殖水産物の供給が必要であるとされています。

急増する養殖により、生息地の転換、外来種の野生化、抗生物質/化学物質の使用、海底の生物多様性、給餌管理、社会と労働問題等への影響が考えられます。そのような影響についてASCの基準に則して管理していこうという認証制度です。ASC認証についてのお問合せはお気軽に弊社マーケティング部(東京本社)へ。



化20年700 全英国27次第 受買

インターテックグループ(英国)は、昨年11月、英国の名誉ある National Business Awards(全英ビジネス賞)で、The Coutts FTSE 100 Business of the Year(クーツFTSE100最優秀ビジネス賞)を受賞しました。National Business Awardsは、英国ビジネス界でのアカデミー賞と呼ばれ、英国の発展に寄与する優秀なビジネスを行った組織に与えられる賞です。今回インターテックが受賞したのは17部門の内の1つで、FTSE100を構成する100社の中から、直近18ヶ月の株価に注目し、国内外での事業成長や実績、株主利益の高かった組織/団体に授与されます。インターテックは、優れたリーダーシップ、顧客重視志向、従業員の高い意欲、そして革新

力が評価され、名だたる競合候補企業の中から選ばれました。

グループCEOのWolfhart Hauserは受賞に際し『私たちの業務はあまり表に出るものではありませんが、世界中で利用されている製品・業務の質、安全性、持続性を大きく向上させるものであり、今回その業務が評価されたことは、大変喜ばしく、光栄に思っております』とコメントしています。これを機にグループの一員である私たちも一層のサービス提供に努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

※FTSE100:ロンドン証券取引所(LSE)における株価指数で、LSE上場企業の時価総額の約8割を占める上位100銘柄を加重平均して算出される英国の代表的な株価指数。インターテック社も100銘柄の1つに選定されている(2012年12月現在)。



審査向上のための取り組み

JACB(Japan Association of Management System:日本マネジメントシステム認証機関協議会)は、IAF(国際認定機関フォーラム)加盟の認定機関により認定されたマネジメントシステム認証機関で構成され、MICもその会員です。会員間の相互協力・交流により、認証活動の質向上、そして第三者認証制度の健全な普及・発展に取り組み、様々な活動を行っています。年一度の総会の他、技術委員会などの個別委員会も設けられ、MICも参加しています。

また、昨年12月にJRCA主催の講演会が東京・大阪で開催され 多数の審査員が参加しました。IRCA、CEARなど他の審査員資格 登録機関でも同様の講演会が開催されています。MICではこのよう な活動・参加を通じて、認証業務の質向上・発展に努めております。

※JRCA:財団法人日本規格協会マネジメントシステム審査員評価登録センター IRCA:国際審査員登録機構

CEAR:環境マネジメントシステム審査員評価登録センター

7MFORMATION ----

□ISOマネジメントシステム規格の共通化と改訂情報説明会□

営業部長 本田 彰



各ISOマネジメントシステム規格(以下MSS)が近い将来改訂するにあたり、現時点にて決定している情報をお客様にいち早く提供することを目的とし、2012年10月中旬から12月上旬にかけて全国の主要都市にて開催、約1000名のお客様にご参加頂きました。当説明会にて使用した資料「ISO/IEC専門業務用指針統合版ISO補足指針-ISO専用手順」にはISO(国際標準化機構)とIEC(国際電気標準会議)により、国際規格の構成及び作成の規則が記されております。その付属書SLの中で「全ての新規のMSSの開発及び既存のMSSを改訂する際は、規格項目の順序、上位構造、共通の中核となるテキスト、並びに共通用語及び中核となる定義に従う」(=共通化)とあり、MSSの共通規格が載っている「第9版(英和対訳版)」として2012年8月24日に発行されました。各MSS個別規格は各技術委員会により現在検討されている最中です。

各MSS規格の改訂は、今回説明した共通規格とこれから決まる各個別規格が一緒になり発行されます。ISO14001は2015年、ISO9001は2015年後半~2016年に改訂予定とされていますので、現段階では当説明を有益な情報としてご

理解頂ければと思います。

出典資料「ISO/IEC専門業務用指針 統合版ISO補足指針」については下記ホームページをご参照ください。また、お客様には各MSSの改訂版が正式に発行された時点で、担当スキームマネジャーから説明させて頂く予定です。

お問い合わせは東京事務所営業部(<u>TEL:03-3669-7435</u>) までお願い致します。

-【出典元】—

日本規格協会HP http://www.jsa.or.jp/itn/shiryo-1.asp ■提供サービスのご案内

【2】ISO/IEC専門業務用指針 及び 規格作成のツール等 ISO/IEC専門業務用指針(ISO/IEC Directives) ISO/IEC補足指針一専用手順

統合版ISO補足指針(Consolidated ISO Supplement -Procedures specific to ISO)

2012年、第9版(和英対訳)(2012年8月24日発行)

矢崎総業株式会社 Y-CITY 様

ISO14001:2004 認証登録

MIC審查員 美濃 英雄 Hideo Mino



矢崎グループは、矢崎総業様を中心に、日本を含む41か国160法人、従業員数約22万名からなるグローバル組織です。日本国内では自動車部品をはじめ、電線、ガス機器、空調機器を扱われ、海外では、主に自動車用ワイヤーハーネスを生産されています。その矢崎グループのコントロールタワーとなっているのが、静岡県裾野市にあるY-CITY様です。約5万坪もの広大な敷地内には、約360本の桜のほか、多くの植樹がされ、管理されたビオトープには清流が流れています。

グループ全体で推進されている環境活動の一環として、Y-CITY様でも2000年にISO14001を認証取得され、2009年からはMICにて審査・認証登録させて頂いております。適用範囲はグループの経営管理などの本社機能を含め、自動車用ワイヤーハーネスの設計・開発と広範囲にわたっており、対象人員は1,500名以上です。

昨年、通算4回目となる更新審査が、審査員3名により3日間に掛けて行われました。Y-CITY様には約20名の環境部門専任担当者がおられ、環境保全活動をはじめ、製品に含まれる化学物質への対応に力を入れられています。

経営層インタビューでは、当敷地のみならず、国内外のグループ全社に関する環境問題に取り組まれていることがうかがえました。マネジメントレビューでは、詳細なデータと合わせての報告、さらに改善に向けた提案も提示され、それらがトップからの承認の下、法規制の順守体制の強化、廃棄物削減につながっています。

内部監査は、約2か月にわたって26部署、18監査 チーム(内部監査員54名)で行われ、ハイレベルな指 摘事項が提起されていました。内部監査員養成を積 極的に進められていることで、内部監査員の増員、ス キルアップ教育によるレベルアップが図られ、ストロン グポイントや改善提案も含めて指摘件数が増加し、シ ステムの維持改善・向上に役立てられています。

2002年から毎年発行されている「社会環境報告書」 には、Y-CITY様を含めた矢崎グループの環境への 取り組みが記載されています。

- ①環境コンプライアンスの徹底
- ②製品に関する化学物質関連法規への対応
- ③事業場及び物流においてのCO2排出量の削減
- ④使用済み製品のリサイクル
- ⑤独自の認定基準に基づく環境配慮型製品の開発 など

東日本大震災の影響による輪番停電の経験を機に、 Y-CITY様では自家発電設備を増設されており、また、廃PCB保管庫(ゴム敷き、防液堤完備)など環境 保全活動として全社で約2.5億円の投資が行われています。

取得から10年以上を経た同社のシステム成熟度は高く、また、組織の規模に関わらず、全部署で取り組み、緻密な管理がされていました。世界が大きく変わっていく中で、「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」を目指し、今後も積極的にチャレンジし続けていかれることを期待します。

ワールドヘッドクォーターズ (Y-CITY内)



ワイヤーハーネス(自動車用組電線)



http://www.yazaki-group.com/

MICリレーエッセイ③

審査員からのエッセイをお楽しみください。



From 千葉県浦安市 則直 彰 (のりなお あきら)



PROFILE

専門分野 ISO9001 - 建築設計

経歴 株式会社疋田設計事務所、則直彰建 築設計研究所(現職)、MIC審査員

(現職)

「負うた子に教えられる」

毎週土曜日は、子供たちに将棋を 教える日です。私の住むマンション や近隣の子供たちが対象です。

将棋は、学ぶと集中力が高まり、 学校の成績も上がるということで、 ちょっとしたブームになっていま す。うちのクラブにも、中学生 らいまでの子供たちが多く在籍 ています。強い子供が何人かい で、 将棋の指せる大人相手に、簡単に 勝ってしまう幼稚園の年長さんも います。生まれて5年ほどで大人に 勝つのですから、人間の脳の凄さ を感じます。

こういう強い子供たちに共通しているのは、将棋の駒を、その特性に合せ、効率よく動かす能力に長けていることです。そして、考えがぶれないこと、常に全体を見ていること、慎重なことです。さらに、終盤は、駒の損得より速さを重視しています。

これは、まさに成功する経営者

が行っていることと同じです。要 員の適材適所の配置と役割の明確 化、一貫した戦略、変化する状況 に応じたプライオリティの決定、 リスク回避、すばやい対応が相当 します。

このように、子供たちの将棋から得ることは多く、「負うた子に教えられて浅瀬を渡る」の気持ちで毎週子供たちと対局しています。

連載「環境とISO14001」③

第37回「コミュニティへの参画」

MIC環境審查員顧問 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

前回は「紛争鉱物」を採り上げ、サプライチェーンを通して原材料の素性を把握することの重要性を述べました。日本が大量に買い付けているサラワク(インドネシア)産の違法伐採木材、学童労働が問われているウズベキスタンの綿など、知らず識らずのうちに人権や環境問題に加担している例が少なくないのです。これらについては機会があったら述べることにしますが、今回はCSRを実践する際に最も重要な「コミュニティへの参画」について説明します。

「コミュニティ」とは企業が活動する場である地域を言います。その地域が豊かな地域であれ、貧しい地域であれ、その地域の社会的、歴史的、経済的及び文化的特性を重んじつつ、地域の未来に影響力を及ぼし、その発展に努めることが求められます。特に、途上国にあっては国連のミレニアム開発目標(MDGs)を避けて通ることは出来ません。これは、2015年までに達成すべき課題として国連はあらゆる組織の参加を呼びかけています。(付表参照)

10年前はこのようなプロジェクトは企業の収益の一部を寄付することによって行えば良しとしていましたが、昨今のCSRの考え方では「参画し、共に解決する」ことが求められます。最近、CSR Asiaのフォーラムで聞いた話です。

日本の某社の例(CSR報告書):○○ 国で社員ボランティアが苗木を△本植えました。「植えた木が育つ日が楽しみです」とありました。実は乾燥地に植林しても無事育つ確率は非常に少ないのです。

キャドバリー社(英)の例:ガーナに井戸を316本掘りました。その結果、6380人の女性が水汲み労働から解放され、1日に延べ165時間分の節約になりました。彼女らには工場での働き口を斡旋中であり、仮に50%が働きに出ると70万ドルの地域収入が増えます。

このように地域に密着して社会問題を解決し、地域の発展に寄与することをISO26000では「コミュニティへの参画、コミュニティの発展」として最重要事項に取

付表

ミレニアム開発目標 (MDGs)

- 1. 極度の貧困及び飢餓を撲滅する
- 2. 初等教育の完全普及を達成する
- 3. 男女の平等及び女性の地位向上を 推進する
- 4. 乳幼児死亡率を低減させる
- 5. 妊婦の健康を改善する
- HIV / エイズ、マラリア、その他の疾病を撲滅する
- 7. 開発のためのグローバル・パート ナーシップを推進する
- 8. 環境の持続可能性を確保する

り上げています。また、その実現のために「ステークホルダーエンゲージメント」の導入を奨めています。「ステークホルダー」とは地域住民、地域の団体・NPOであり、彼らとの関係構築を求めています。このことは、途上国での事業に限らず、国内で復興事業を進めるうえでも必要なことであり、今日では「持続可能な発展」への必須要件であると思われます。

次回はCSR新潮流の影響について考えます。



が容さまからのお便り



隠岐の島

株式会社竹田組 (ISO9001:2008 認証登録) 総務部 金坂 明日香

島根半島の沖合約70kmの海上に浮かぶ隠岐の島。 島後(どうご)1島、島前(どうぜん)3島から構成され、 島全体を含め国立公園(大山隠岐国立公園)に指定 されています。綺麗な海、豊かな森、たくさんの虫・・・ や花。そんな自然いっぱいの島に、当社は存在します。 当社は、道路工事や河川工事を中心に施工する建設 業者です。創業60年、知識・経験を積み重ね、今では 工事成績平均点島内1位(県内4位)、そして、知事表彰 や技術者表彰など数多く受賞させて頂きました。この島 の素晴らしい自然を守っていくと同時に、住みやすく暮 らしやすい環境整備をするのは難しいことですが、この 両面をしっかり考え、今後も隠岐の島の為に努力、貢献 していきたいと思っています。皆さん、是非隠岐の島へいらしてください。



▲島根県隠岐諸島 周辺図

▲ 本社(隠岐の島町)

人生リサイクル

三洋金属株式会社 (ISO14001:2004 認証登録) 顧問 杉原 卓治

♪りさいくるくるりさいくる♪ 当社がある岡山と、四国香川で放映されているテレビCMの主役は、往年の名子役として一世を風靡した「ケンちゃん」こと宮脇康之さん(KEN)。当社の広報部長でもある宮脇さんと当社社長の黒本明雄との出会いは、ケンちゃんの波乱万丈の人生と、社業である「高度なバッテリーリサイクル」が重なり合い、意気投合したことからと聞いています。「人生何度でもやりなおせるよ~人生リサイクル」のメッセージが、今日もテレビから流れています。(このCMは、動画配信サイト「YouTube」でもご覧頂けます。)

当社は、西日本を中心に広く全国から使用済みバッテリーを回収し、マテリアルおよびサーマルでの「完全リサイクル」を行っています。特に、平成19年のEMS構築・運用後は、環境方針~目的・目標に意欲的にゼロエミッション(埋め立て産業廃棄物ゼロ)を設定、すでに3年にわたり目標を達成・維持し続けています。

また、バッテリー解体時の電解液(主に希硫酸)は流下式の床に流し、タンクに回収して運搬・リサイクルするため、床の保護面が三重構造になっています。コンクリート床の上に、まずFRP樹脂が9mm厚で塗布され、次に振動吸収材として天然ゴムが9mm、さらに9mmのステンレス鋼板が施工されています。

平成20年7月にISO14001を認証取得しました。導入に

より、社員の環境に対する認識が非常に高まり、日常業務の中にも活かされています。例えば、ステンレス床の変化を目視で定常監視するとともに、屋内作業用のフォークリフトや運搬車両がタイヤを介して屋外に汚染物質を引っ張らないよう、設備改善のみならず自主基準(場内作業手順)を確立、作業工程の変化に応じた即時の見直しを行い、システムの有効性を継続的に高めています(緊急時計画の対象にも設定)。

昨年7月の新本社工場竣工(旧本社工場と同一場所に 建て替え)にあたっては、近隣との環境共生を進めるため、 防音壁の新設や車両動線の改善による交通障害予防、 会社ロゴ表示によるコミュニケーションなどにつとめていま す。今後もシステムを活用し、業務拡大を図っていきたい と思っております。



▲新本社工場(岡山市)



▲広報部長 宮脇康之氏

MIC情報通信39号-2013年1月

7

今年の干支は癸巳(みずのとみ・きし)。「癸」は十干の10番目で、「揆る(はかる)」の意味から植物の内部にできた種子が測れるまで大きくなった状態を表し、「巳」は草木の成長が極限に達した状態を指すことから次の生命が実となり新たな旅立ちを意味するそうです。

"新たな"といえば、今年は伊勢神宮(三重県)で1300年以上続いている神事、「式年遷宮(しきねんせんぐう)」が予定されています。遷宮とは新しい社殿に神々を遷す、いわば神様のお引越しのことで、社殿の他、御装束神宝も全て一新されます。式年は定められた年という意味で、伊勢神宮では20年ごとに行われており、起源は飛鳥時代まで遡ります。天武天皇が定め次の持統天皇の時に第1回目が行われました。それから1300年以上にわたり、戦国時代の中断や戦時中の延期を経て、今回62回目を迎えます。なぜ20年なのかという定説はないそうですが、今より平均寿命が短かった時代背景から、神殿の新造や装束神宝の新調に必要な伝統技術の伝授・継承には20年が年限だったのではないかとの説もあります。遷宮の準備は8年前から進められるそうで、用材用の桧を伐採する山の神に作業の安全を祈る「山口祭」から始まります。それ以降30以上の祭りや行事を重ね、今年秋に御神体を遷す遷宮祭の中核儀式「遷御」を迎えます。20年ごとに一新される遷宮には生命(生きる力)を更新するという意味も含まれており、常に新しく変わらぬ姿で永遠をめざす「常若(とこわか)」の精神を遷宮は象徴しているとも言われています。

そして、現在出雲大社(島根県)でも「平成の大遷宮」として60年ぶりに本殿の修復や屋根の葺替えが進められ、5月に「本殿遷座祭」が予定されています。出雲大社では定期的な式年遷宮ではないため両宮の遷宮が重なるのは非常に稀なことだそうです。国内最大級のパワースポットとしても名高い両神社の大神事にあやかりパワー溢れる年にしたいものです。皆様方にとりましても力強く飛躍する年となりますようお祈りしております。本年もどうぞよろしくお願い致します。(参照:伊勢神宮HP、出雲大社HP)



研修コースの三案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

○ 内部監査員コース 9001/14001/18001/27001 (2日間)

【開催地】東京·大阪·富山·金沢·新潟·福井·他

【対象者】 ●品質/環境/労働安全衛生/情報セキュリティマネ ジメントシステムの導入を予定/検討している

- ●システムをより効果的に運用したい
- ●効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

■ ISO9001:IRCA認定 審査員研修コース (5日間)

○ ISO14001:IRCA認定 移行型審査員研修コース (3日間)

【開催地】東京

【対象者】●審査員の目で内部監査を行いたい

●内部監査グループのリーダーに任命された

●将来審査員を目指している

~ 受講生からのお便り ~

ISO27001 内部監査員研修コースを受講して 情報セキュリティ内部監査員コース(2012年9月東京会場)受講 株式会社昭文社デジタルソリューション SI開発部サービスサポート課 重村 祐司

弊社は、デジタル地図データの制作を中心に、地理情報システムの開発から販売地図情報に関するWeb配信システムの運用などのサービスを展開しています。2005年にBS7799-2:2002を認証取得してから、2006年にBS ISO/IEC27001:2005へ移行し今年の維持審査で、登録から7年となります。

私は、弊社でISMSを導入する当初からの推進メンバーとして、携わってはおりましたが事務局が中心として動いていることもあり、積極的に活動していたわけではありませんでした。従って、今回の内部監査員コースに参加するに当たっても、知識不足は否めず、研修についてゆけないのでは無いかと不安もありました。しかし実際に参加してみると、講義内容はわかりやすく、事例も交えた説明で予想以上に理解でき、楽しく、大変有意義な研修でした。今回の研修で得た内容を社内へ展開して内部監査のレベルを上げて行ければと思います。講師の先生、スタッフ、参加者のみなさんのご配慮、誠にありがとうございました。

お詫びと お知らせ

| 頂きました。ご了承ください。 | 連載「審査員の心理」はお休みさせて

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社

http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm

◇東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル4F TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410 E-mail: mi-certification@moodygroup.co.jp

◇ 大阪事務所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13F TEL:(06)6150-0571 FAX:(06)6150-0575 E-mail:mic-osaka@moodygroup.co.jp